

飼料用とうもろこし・稲WCSの生産拡大で少人数・大規模経営

稲作農家 3 経営体
(新発田市、経営規模160ha)

新発田コントラクター

酪農家 2 戸
(新潟市 2 戸、乳用牛120頭程度)



- 少人数で大面積を管理する経営に転換しなければ、10年後、20年後に地域を守ることができない



- 作業時間の短い飼料用とうもろこし・稲WCS・ライ麦の生産に取り組んだ



- 輸入牧草、配合飼料の価格高騰が経営を圧迫
- 堆肥の還元圃場の不足



- 構成員から飼料用とうもろこし・稲WCS・ライ麦を購入した
- 堆肥を構成員の圃場に還元した



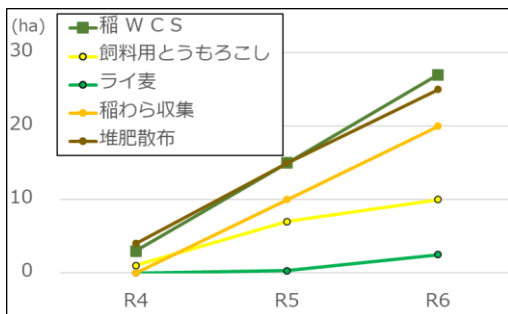
作業時間を米と比較すると、飼料用とうもろこしは1/16、稲WCSは1/3



- 人員を増やさず面積拡大できた (まだまだ経営規模拡大可能)

さらに、堆肥による土づくりが可能に

飼料用とうもろこし、稲WCS、ライ麦、堆肥散布の推移



給与方法?

稲WCSは台車を利用して給与



- 飼料費が3割削減できた
- 堆肥を全て還元できた



さらに、受胎率向上・乳量増加